

## TCDPAP/ASPAC Annual Conference 2007 “Engineering and Disaster Management” 参加報告

国際活動委員会 ASPAC 分科会  
(株)建設技研インターナショナル  
業務本部営業企画室室長  
ASPAC 分科会長 前田 剛和

国際活動委員会 ASPAC 分科会  
(株)オリエンタルコンサルタンツ  
東京事業本部  
ASPAC 分科会委員 渡津 永子

### 1. 会議概要

Technical Consultancy Development Programme for Asia and the Pacific (TCDPAP) と、FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region (ASPAC) 共催による、“Engineering and Disaster Management” をテーマとした地域大会 (TCDPAP 年次大会) が、パキスタンのラホール、Avari Hotel において、2007年3月20日から22日の日程で開催された。

アジア・環太平洋地域より、16カ国約350名が参加した。地元パキスタンから、パキスタン地震再建復興庁(ERRA)、National Engineering and Services Pakistan (NESPAK)からのエンジニア、関係者等が多数参加していた。

技術セッションテーマとしては以下の3つがあり、12名が発表した。

- ・ Adequacy of Engineering Design
- ・ Post Disaster Reconstruction
- ・ Social & Environmental Impact



400人近い参加者で熱気あふれる会場

### 2. 開会式 (3月20日 9:30～)

大会は厳かなコーランの朗唱で始まった。

今大会のホスト国であるパキスタン協会 (ACEP) の Chaudry 会長による開会のあいさつののち、2005年にパキスタンを襲った地震についてのドキュメンタリーフィルムが紹介された。

続いて FIDIC の Padilla 会長、ASPAC 廣谷議長、TCDPAP の Haque 会長、ERRA より Saleem 議長が、開会の言葉として、大会への期待、防災におけるコンサルティング・エンジニアの役割の重要性などについて述べられた。

### 3. 導入セッション (3月20日 11:30～)

技術セッションに入る前のイントロとして以下の講演があった。

FIDIC 会長は、今後アジア・アフリカ地域における人口増加、地球温暖化等が引き起こす災害に対して、コンサルティング・エンジニアの役割、それをサポートする



ASPAC 会議の様子

FIDICの役割について述べられた。今後各国のコンサルティング・エンジニアは「自立」し、技術、サービスの「質」を高めて、社会に貢献する必要があること、そのためにFIDICとして技術支援を惜しまないこと、また各企業の技術が正当に評価されるようQBSを今後も推進していくことなどが述べられた。

続いて、近年、大災害に見舞われた日本、インドネシア、パキスタンにおける災害経験等に関する発表があった。

日本からは廣谷会長が、日本の防災システムについて、阪神・淡路大震災で明らかになった課題と、それらの改善に向けた近年の取組を紹介した。

インドネシアについては津波災害、パキスタンについては地震災害について、その被害状況と各国からの支援に基づく復興状況について紹介があった。

各国に共通していたのは、災害復興におけるソフト面・ハード面からの支援の必要性、災害に対する市民への教育、早期警告システムなど研究開発分野への支援などであった。

各講演者とも予定時間を超過したことに加え、質疑応答も非常に活発に行われ、時間が1時間あまりオーバーした。中には的外れな質問もあったが、FIDICに対する期待の高さが伺えた。

#### 4. テクニカルセッション1 (3月20日 14:00～)

“Adequacy of Engineering Design”をテーマに4名が発表した。

地盤等の設計に関するISO規格 (ISO23469:2005) や

パキスタン地震における被害と対策を地質面からさぐったもの、また地震の推測に必要な土壌パラメーターに関する研究などの発表がなされた。

なおこのセッションでは、日本工営(株)の百瀬氏が日本の中越地震に関する紹介を行った。

セッション全体を通して、非常に学術的な発表が多かった反面、質問者からは「それがここパキスタンでの地震の復興にどんな役に立つんだ」「その技術をどう使えばいいんだ」という質問が相次いだ。

#### 5. TCDPAP 役員会 (3月20日 16:45～)

今後もインド主導で、活動を継続・拡大していくことを確認した模様。

#### 6. ASPAC 会議 (3月21日 7:30～)

インド、ネパール、パキスタン、韓国、バングラディッシュ、日本及びFIDICより Enrico Vink 事務局長を迎えての会議となった。

会議冒頭で、FIDIC 事務局長より、FIDICの地域組織であるASPACに対し、今後も各国の状況について情報交換を行う機会を設け、FIDICと連携して活動することや、問題点・課題についてはFIDICができる限りの支援を行うこと、などが述べられた。

議題のASPACホームページについては、トップ画面の見え方や、FIDIC本体のホームページとのリンクについて意見があがった。今後、試用期間を設け、他のMAやFIDIC役員会の意見を収集する。



オープニングの様子

左から ACEP 会長、TCDPAP 会長、ERRA 議長、FIDIC 会長、ASPAC 議長



山下氏の発表の様子

FIDIC2007大会においては、ワークショップ1において、インドか中国がASPACメンバーの代表としてプレゼンを行うことが望ましい旨を確認した。今後FIDIC担当者に働きかけを行っていく。

FIDICによる研修制度については、事務局長より、オンラインのトレーナー研修システムや、地域研修センターの設立、ADBと連携した研修などについて説明がなされた。地域におけるセミナーの開催等詳細についてはFIDIC本部に問い合わせることとした。

またCBSが主体となっている現状において、低価格で契約したコンサルティング・エンジニア企業になんらかの評価制度が必要ではないかという提案については、FIDIC全体で発注者に対しQBSを強く求めていくことを確認した。

#### 7. テクニカルセッション2 (3月21日 9:00～)

“Post Disaster Reconstruction”をテーマに4名が発表した。

パキスタン地震の復興状況や韓国、インドにおける防災への取組などについて紹介があった。

地域特性(地質状況、社会状況)を踏まえた設計・建築方法や資材の利用方法等について、提案がなされていた。

#### 8. テクニカルセッション3 (3月21日 11:45～)

“Social & Environmental Impact”をテーマに4名が発表した。



廣谷会長はASPAC議長声明、防災に関する発表など計3回登場

災害後の自然環境、社会環境への影響とその影響軽減の対策等について発表がなされた。

このセッションでは、CTIの山下氏が地球温暖化の影響と洪水の発生に関する講演を行った。地震に関する発表が続く中で、地球温暖化に関する発表は非常にめずらしく、この地域に対する影響などについて質問がなされていた。

#### 9. 閉会式 (3月21日 14:00～)

会議全体の総括が、大会事務局長 M. Mazhar-ul Islam 氏からなされた。

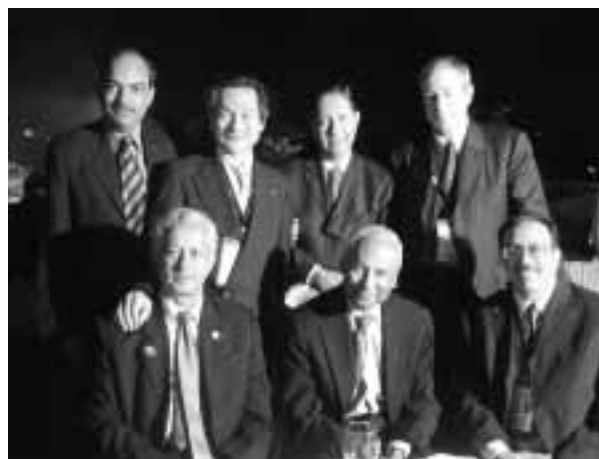
また、FIDIC会長、ASPAC議長、TCDPAP会長、ACEP会長より、それぞれ今大会に対する感想やTCDPAP、ASPAC各組織が連携して活動していくことへの期待などについて述べられていた。

#### 10. 終わりに (全体を通じて)

FIDIC議長の閉会の言葉にも表れていたが、今回は発表内容の質の高さ、一般参加者の意識・関心の高さ(情報収集への意欲)、会場設備、レセプションの趣向など、非常に驚くことの連続であった。

またFIDIC、TCDPAP関係者に対しては、今後ASPACとして活動していくことを強く印象づけることができた。

ASPAC、TCDPAP両組織については、活動目的や構成メンバーが重複することから、組織のあり方についてこれまでも議論されてきた。両組織の競合が



NESPAK主催の晩餐会にて

懸念されるなか、今大会のように様々な活動を連携して行うことで、将来的な方向性を今後も探っていく必要がある。

なお、次年度のTCDPAP年次大会は、隣国韓国での開催予定であり、ASPACとしても協力して運営にあたることを約束している。

本大会を通じて、アジアにおけるコンサルティング・エンジニアの連携、国際会議での個人と個人の繋がり的重要性を痛感した。今後のASPACとしての活動を充実させるためにも、今回得られた貴重な繋がりを活用していきたい。



発表後、記念品を受け取られる百瀬氏



NESPAK主催の晩餐会にて  
Padilla会長、廣谷会長とともに

## 国際活動委員会寄稿

### FIDIC NEWS (December 2006 発行) 抄訳

訳責：国際活動委員会 IFI分科会

#### 1. 活動 (Activities)

##### 1.1 FIDIC は、コントラクターの代表と新しいイニシアティブについて討議中 (FIDIC discusses new initiatives with contractors' representatives)

FIDIC は、2006年1月下旬ドバイにおいて開催された世界銀行と国際的な建設業者を代表している国際建設業者協会連合会 (CICA; the Confederation of International Contractors' Association [www.cica.net](http://www.cica.net)) の調達に関わる年次会議に参加した。CICA は、社会基盤事業のための国際的に受け入れられた標準的な契約約款の利用を確実にしている FIDIC の努力に対して繰り返し感謝の意を述べ、一方で可能な修正についても討議を続けている。汚職も重要な議題であった。契約業界 (Contract Industry) は、効果的な反汚職ツールの開発における FIDIC の業績を認めている。良好な調達業務のための鍵である「質」もまた主な関心事項であった。契約業界では QBS のプラス面の理解がさらに進んでいる。共同して世界銀行へ働きかけることを計画しており、民間部門からのアプローチを強化することの有用性を認識してもらうことを目論んでいる。これは、世界銀行の汚職に対する戦いや調達手順の改善への後押しに、この業界がどう呼応していくかに懸かってくるであろう。

**解説)** FIDIC は発注者、Contractor との連携、共同歩調がコンサルティング・エンジニア (CE) の独立性、地位向上の基盤であると位置付けており、FIDIC が提唱する課題、刊行物発刊に際し、緊密な連絡を取り、意見交換を実施している。CICA、国際融資機関とは頻繁に連絡、会議を開催し、必要に応じて共同でセミナー等も開催している。

##### 1.2 グローバルな品質の確保にはパートナーシップが鍵 (Partnerships are the key to global quality)

2006年のFIDIC年次大会のワークショップで揚げられたキーポイントについての包括的なまとめの中に、大会の主催組織 (FIDIC と EFCA)、会員協会と企業への推奨事項が述べられている。このまとめは全体の発表資料と要約リストとして、オンラインで利用できる。2006年の大会ではCE業界が信頼されるアドバイザーと成果品の供給者として、質のよいサービスを提供する能力があるかどうかに関心をあてた。FIDIC2007シンガポール大会 (9月9日-13日 [www.fidic2007.org](http://www.fidic2007.org)) では「グローバルサービス、パートナーシップの強化」というテーマの下で、質のよい成果をグローバルに提供するために、良好なパートナーシップを作り出していく本質を探求することによって、2006年の成果を進展させていくであろう。

**解説)** FIDIC の基本政策のひとつに「質による選択」(QBS) があり、これの普及には時間を掛け、理解を得る必要を認識し、会員に協力を訴えている。

#### 2. 行事 (Events)

##### 2.1 FIDIC 契約約款ユーザーズ会議で最近の傾向に関する活気ある討議 (Users conference provided a vital opportunity to discuss recent trends)

およそ100人の参加者が、第1回FIDIC契約約款年次ユーザーズ会議 (ロンドンにて11月11日-12日開催) に参加した。会議はグローバルイベント企画会社である Informa と共同体制を敷き、FIDIC とその研修パートナーである Cornerstone、ECV、及び SF-Consult により進められた。この会議は、FIDIC 契約約款のユーザーのうち、「世界中での最新の進展内容を知りたい人たち」に対して行われたものである。FIDIC 会長 Jorge Diaz Padilla は、会議を開会宣言し、

主な結論をまとめ、FIDIC 契約約款作成メンバーの出席者のうち、誰が誰かについて紹介した。FIDIC 契約約款の管理、草稿作成、販売促進及び研修に関与した人の大半が、21 カ国からの参加者とともにこの会議に出席することができた。初日の議長で FIDIC 理事 (Executive Member) Geoff French とともに、CE 業界、契約者組織と MDB (国際開発銀行; the multilateral development banks) からの講演者たちは、FIDIC の MDB ハーモナイズド版建設契約約款を使ってよい結果を得たことを確認した。この建設契約約款は、MDB の出資する国際競争入札プロジェクト向けである。そのほかにも、FIDIC の DBO 契約約款素案についての最新情報が公表されるとともに、既存の FIDIC 業務契約約款 (建設、プラントと DB、EPC/ターンキー) に関して生じている問題点や、紛争委員会での最近の進展状況について発表された。このように、この会議は幾つもの相互に関連するホットなトピックのワークショップを特徴とし、Hans Ammendrup (Denmark)、Ellis Baker (France)、Gwyn Owen、(UK) と Nick Henchie (UK) によって主導された。FIDIC の契約約款コース、ワークショップ、セミナー及び年次大会のプログラムは、2007 年 12 月に予定されている次回のユーザーズ会議を確固たる物にするように機能し続けるだろう。

**解説)** 従来 FIDIC は契約約款の作成者としての解説セミナーを開催してきたが、今回初めて、契約約款を使用している専門家を対象に、意見を聴取し、今後これらの意見を勘案した内容の改訂を審議することになった。このセミナーは毎年開催する予定である。

## 2.2 予定されている訪問や会議 (Forthcoming visits and meetings)

- ・ FIDIC Executive Meeting, New Dehli, 29-30 Jan 07
- ・ FIDIC-CEAI Capacity and PSM Seminars, New Dehli, 31 Jan and 1 Feb 07
- ・ Cornerstone Dispute Resolution Workshop, Copenhagen, 8-9 Feb 07
- ・ FIDIC-IFC ADR Roundtable, Sarajevo, 14 Feb 07

- ・ FIDIC-UAESoE-ECV Contracts Course, Abu Dhabi, 26-27 Feb 07
- ・ FIDIC-VBI-VUBIC Contracts Seminars, Berlin, starting Mar 07
- ・ FIDIC-OICM Seminar, Bamako, 11 Mar 07
- ・ FIDIC-ECV Dispute Resolution Course, Brussels, 12-13 Mar 07
- ・ FIDIC ASPAC-TCDPAP Regional Conference, Lahore, 20-22 Mar 07

## 3. 契約約款 (Contracts)

### 3.1 FIDIC は ADB への研修提供業務を受注 (FIDIC awarded contract to supply ADB training)

FIDIC は研修パートナーである ECV と共同して、5 カ国 (ベトナム、インド、バングラディッシュ、インドネシア、パキスタン) に駐在するアジア開発銀行 (ADB) スタッフへの研修プロジェクトを受注してきた。この研修は「FIDIC 建設契約約款とプロジェクト管理における紛争解決手法」について 2007 年 1 月中旬から 3 月中旬に行われる。このプログラムの狙いは、スタッフに建設に関する FIDIC 契約約款と紛争解決手法を理解してもらうことであり、それにより、ADB 出資プロジェクトの契約事務を改善する事である。この研修は、FIDIC が 2006 年に北京で試験的なコースを開催し、2001 年からマニラにある ADB 本店で実施してきた一連のコースから発展してきたものである。トレーニングの教材と 2~3 日間コースのプログラムは、FIDIC 契約マニュアルのモジュール 1 と 2 がベースになっているが、一方、ADB のプロジェクト調達及び管理面での契約約款に関連したスタッフのコアコンピタンスに焦点を当てる必要性が生じたことによって、研修範囲を広げる必要性が生じた。FIDIC は他の地域へ向けても類似のプログラムを検討している。それらは、プロジェクト管理と調達の他の観点、特に公正管理と持続可能性管理にまで拡大したプログラムである。

**解説)** FIDIC 契約約款、FIDIC が主唱する公正管理システム等の国際融資機関職員向けの研修セミナーをアジア開発銀行の各国駐在職

員を対象に実施することになった。結果を見た上で、他融資機関にも拡大する予定である。PROJECTに実際に携わる職員を対象にし、研修を実施することにより、FIDIC契約約款の実務上の普及に焦点を合わせている。

### 3.2 ヨルダンと研修について同意 (Training agreement for Jordan signed)

ヨルダンのエンジニアと会社を登録した組織であるヨルダンエンジニア協会 (JEA; www.jea.org.jo) とビジネス関係者の代表からなる新しいフォーラムであるヨルダン A/E ビジネスカウンスル (Architecture/Engineering; A/EBC; www.aeb-council.org) が、FIDIC-JEA-A/EBC研修プログラムをヨルダンで行うことに同意した。A/EBC議長 Bisher Jardenah と JEA 会長 Wael Saqqa が FIDIC 常務理事 (Managing Director) Enrico Vink の前で 2006 年 11 月 14 日、アンマンにて同意書にサインした。FIDIC の契約約款及び実施要領トレーニングマニュアルに基づいた研修コースを 2007 年の上期にアンマンにある設備の整った JEA エンジニアトレーニングセンターで開始するように要求されている。一方、JEA と A/EBC はそれらのエンジニア事務所委員会を取りまとめた傘型組織に基づいた会員制について討議している。中国 CNAEC と行った試験的セミナーで作成されたものと同様の認定証明制度の確立がもう一つの目標である。

**解説)** 経済活動が活況を呈している中東から FIDIC への照会が急増している。今回ヨルダン協会 (FIDIC の会員協会ではない) との間で、FIDIC 契約約款を中心とした研修セミナー開催契約を締結した。ヨルダンでは未だ統一した契約約款を使用しておらず、これを契機に FIDIC 契約約款の普及と FIDIC 会員協会編成を協議し、近い将来 FIDIC への入会を勧める。

## 4. 協会活動 (Representation)

### 4.1 湾岸エンジニアリングフォーラムで業界の組織について講演 (Gulf Engineering Forum addressed industry organization)

FIDIC 会員協会である the Saudi Council of Engineers により開催された第 10 回湾岸エンジニアリングフォーラムは、エンジニアリング活動を組織的にするために、これまでと違ったアプローチに全体的な力を注ぐこととなった。このフォーラムは「エンジニアリング専門領域を発展させ保護するための専門家の職権と役割」をテーマとして、2006 年 11 月 10 日-13 日にコバル (Khobar) にて開催された。会議は副総理大臣である皇太子 Sultan Bin Abdul Aziz の名代としてサウジアラビア東部地域知事である Mohammed Bin Fahd Bin Abdul Aziz 王子により開会された。FIDIC 事務局長 (General Manager) の Peter Boswell が基調講演で国際的な見通しについて言及し、国際的な標準に見合った個々のエンジニアの質についての社会的な規定とクライアントの求めるものを提供する能力を蓄積するという CE 業界の役割との間の違いを明確にする必要があることを強調していた。湾岸共同評議会諸国 (Gulf Cooperation Council States) の関係者が集まり、プロフェッショナルの実体について議論した。幾つもの国の中で、特にサウジアラビア、ヨルダン、バーレーン及びオマーンがプロフェッショナルと業界の利害関係をいかに統制し、代表してきたかについて説明した。

### 4.2 中央ヨーロッパイニシアティブフォーラムにおいてサービス取引に注目 (Central European Initiative forum focussed on services trade)

欧州復興開発銀行 (EBRD; the European Bank for Reconstruction and Development) がスポンサーとなって開催された第 9 回中央ヨーロッパイニシアティブサミット経済フォーラムにおいて、政府関係者と 1,000 人程の参加者が 2006 年 11 月 22 日-23 日にアルバニア国 Tirana 市に集まった。そして、欧州の新しい経済圏での取引を促進するためのイニシアティブについて検討した。社会基盤が重要であるとすれば、

サービスの取引は特に注目すべき事項である（報告書参照 [www.ceinet.org/SEF](http://www.ceinet.org/SEF)）。FIDIC 会長 Jorge Diaz Padilla は調達における品質について強くアピールした。そして「資格のあるコンサルタントを初期の段階で評価する場合には、価格要素を排除する必要性があること」を強調した。議題の中にももちろん載っている「汚職」に絡んで、FIDIC が BIMS (Business Integrity Management) により得られる恩恵について説明することができ、FIDIC のコンサルタント選定ガイドラインと BIMS 出版物が大変注目を浴びた。FIDIC は、アルバニア会員協会であるアルバニア CE 協会の公共部門調達責任機関への働きかけの努力に対して、支援する機会も得ることができた。

#### 4.3 UAE の会員について討議され、研修が強化された (UAE membership discussed and training consolidated)

膨大な社会基盤開発とそれに伴って流入する多くのコンサルタントエンジニアは、7つの湾岸諸国間での調達において、おそらくかなりの協調をすることになる。また、この動きは国際的な契約約款とビジネス実務規約の役割について政府の認識を増大させた。FIDIC 会長 Jorge Diaz Padilla が FIDIC 常務理事 (Managing Director) の Enrico Vink とともに 2006 年 11 月に訪れた機会に、FIDIC 出版物の利用が増え、関心度が上がり、FIDIC とより緊密に連携したいという強い要望を確認した。主に国外ではあるが、12,000 人の個人エンジニアをメンバーとしている UAE のエンジニア協会 the United Arab Emirates Society of Engineers (UAESoE) との会議では、CE 業界におけるビジネスの利害関係を代表する適切なモデルに注目が集まった。そこではまた、研修についての更なる討議が行われた。FIDIC の契約約款 (マニュアルのモジュール 1) の実務的な使用方法に関する第 1 回の 2 日間コース (FIDIC-ECV-UAESoE contracts course) がアブダビで 2007 年 2 月 26 日-27 日に開催される。そして、これに相当する FIDIC 契約約款を理解するための 2 日間の FIDIC コーナーストーンワークショップが 2007 年 5 月 16 日-17 日に行われる。

## 5. ビジネス実務 (Business practice)

### 5.1 業務範囲定義作業部会が 9 つのプロジェクトフェーズを想定 (Scope definitions task group envisages nine project phases)

調達における透明性をより高め、開かれた競争への技術的な障害を減らす、もしくは無くすこと、および価格重視の選定手順を排除するために、FIDIC の業務範囲定義作業部会は様々なプロジェクトのフェーズにおいて CE により提供されるサービス範囲の標準的定義を検討している。これらの定義によって、提供されるサービスの質の種類をクライアントが理解しやすくなる。EU の無償案件では、作業部会は EFCA と共同して、コンサルタントのサービスの標準化を行った。プロジェクトを 9 つのフェーズに分けて提案された定義について、各会社は会員協会を通してまもなく見解を求められるであろう。

## 6. 事業展開 (Business development)

### 6.1 持続可能な建築イニシアティブが最初の成果を近日リリース (Sustainable buildings initiative soon to release first products)

持続可能なインフラストラクチュア整備促進政策の発展を協働して進め、また支援することは、重要な FIDIC の目的である。2006 年の中頃に開始された UNEP の「持続可能な建築物および建設イニシアティブ (SBCI)」は、これに大きく貢献する可能性を持っている。FIDIC は、FIDIC の持続可能な開発委員会のメンバーである Iksan van der Putte が SBC 理事会のメンバーになることで認知されている。さらに、彼は、SBCI シンクタンク「建築物のエネルギー効率向上への投資を増やす公的補助メカニズム」のエキスパートでもある。UNEP/SBCI 2006 年年次会議の報告書 (オンラインで PDF を利用可能) は、シンクタンクの主な成果である SBCI 報告書の一つ「建築物と気候変動」を含めて、今日までの成果を要約している。FIDIC は、建築用の様々な認証システムを持続可能性とリンクする方法として、プロジェクト持続可能性管理 (PSM) を位置づけている (モロッコのラバトで 2007 年 4 月 2 日から 4 日にかけて開催予定



のUNEP/SBCI 2007年次会議でPSMのプレゼンテーションを予定)。SBCIは政策に対するそのインパクトを評価するであろう。FIDICは、「建築物の設計および建設のためのライフサイクルアプローチを支援する政策および経済的誘因」に関するシンクタンクにエキスパートを派遣するように最近要請された。

## 6.2 エジプトのESCONEがCEの評判向上を支援 (ESCONE-Egypt to help raise the profile of consulting engineers)

エジプトのESCONEの支援により、FIDIC会長 Jorge Diaz PadillaとFIDIC常務理事(Managing Director) Enrico Vinkは、エジプトおよび近隣諸国のCEの評判を向上させる活動の一環として、サウジアラビア、ヨルダン、スーダンおよびエジプトの代表と2006年11月後半にカイロで議論をすることができた。新しく任命されたESCONE執行委員会は、2007年中頃までにコンサルタント選定に注目した会議をカイロで開催する計画を提案することにより、主導権をとった。その間に、ESCONEと他のアラビア語圏FIDICメンバー協会およびパートナーからの代表の間で標準アラビア語バージョンの準備の第一歩としてESCONEがFIDICドキュメントをアラビア語に翻訳する許可、特にFIDIC契約約款およびサービス契約書の翻訳許可についての検討が継続されている。ユーザーを混乱させて、訓練プログラムの確立を複雑にする、無許可バージョンの出版に向けた良くない傾向がみられる。

**解説)** エジプト協会はFIDIC加盟の歴史は古く、中東諸国の中で永年FIDIC活動を支援してきている。しかし近年その活動が停滞する一方、FIDIC刊行物のアラビア語版(海賊版)がエジプトで出版され、中東諸国で使用され、契約上混乱をきたしている。FIDICとして認可を受けたアラビア語版の出版を促進すると共に、エジプト協会の再建を支援することになった。

## 7. 倫理 (Ethics)

### 7.1 OECDが国家調達における公正性の最善の手法を調査 (OECD reviews integrity best practice in national procurement)

OECDメンバー国は2004年に「透明性と説明責任の欠如は、調達における公平性と機会均等確保に対する主な脅威である」と確認した。FIDIC事務局長(General Manager)のPeter Boswellが参加した最近のOECDのシンポジウム「調達における公正性確保と汚職防止のためのよい習慣の計画、パリ; 2006年11月29日-30日」で報告された国家調達システムに関する後の調査結果は、トップダウンの良い統制とボトム・アップの最善の手法の両方に関して著しく包括的な要約を行っている。その調査は、需要の評価からプロジェクト完成までの調達のすべての段階におけるいわゆる「灰色の部分」をいかに扱うかに焦点を当て、透明性の要求事項には重きを置いていない。得られた主な知見は、報告書草案の中に要約されている ([www.fidic.org](http://www.fidic.org))。

ビジネス公正管理システム (BIMS)、プロジェクト持続可能性管理、契約のハーモナイゼーションおよびサービス範囲の定義の分野におけるFIDICのイニシアチブに関するプレゼンテーションに続いて、参加者は、民間部門が多くの分野で主導権をとっていると結論づけた。特に、BIMSを適用した調達活動は低い諸経費と標準化された分類によってなされるので、多くの問題を解決する手助けとなる。FIDICメンバー協会は、調査報告書草案に対して2006年1月15日までにコメントするように要請されている。これは2007年3月の最終報告公表に間に合うように、OECDへフィードバックするためである。その間にOECDは、国家調達政策および手続きに関する進行中の議論において、民間部門をより包括的に参画させる方法を確立する手助けをFIDICに要請している。

## 7.2 FIDIC が国連初の汚職防止セッションに参加 (FIDIC participates in first UN anticorruption session)

FIDICは国際的に汚職防止に先導的に取り組んでいる主要メンバーの一員として、汚職防止国連協定締結に向けた各国代表団会議の最初のセッションに参加するように要請された(UNCAC; ヨルダン、2006年12月10日-14日; UNODC ウェブサイト)。これは汚職防止に関するはじめての法的に拘束力のある国際協定である。国連麻薬・犯罪事務所(UNODC) 常務 Antonio Maria Costaは、モニタリングと技術援助および資産の回収を主なトピックとして講演し、「NGOのメンバーと財界人に汚職と戦うことにコミットすることを託する。」と最終宣言で述べた。また、「それらの圧力は汚職防止への取り組みに熱意や誠意があるとは言い難かった政府に対する牽制に重要になる」と付け加えた。このメッセージは、協定の実行促進とモニターにより、機会均等な競争市場を求め続けるようにビジネス界を励ましている。業界代表(主として国際商工会議所、世界経済フォーラムおよびFIDIC)は、公および個人のイニシアティブに関する議論に参加し、汚職との戦いでより大きなリーダーシップを示し、かつ様々な協定の遵守するように政府に要求する宣言を準備した。その宣言はすべての政府代表団に配布され、会議の成果の一部になった。第2回と第3回のセッションは、2007年と2008年にそれぞれ開催される。

## 7.3 マレーシアビジネス公正性セミナーが200人超の参加者を魅了 (Malaysian business integrity seminar attracted over 200 participants)

FIDICビジネス公正性管理職セミナーが2006年11月11日から12日にかけてクアラルンプールで開催された。工業省副大臣 Dato Ir. Mohammed Zin B. Mohammedによる開会の挨拶で始められたこのセミナーはマレーシア全国公正性計画の出発点であった。彼は挨拶の中で計画およびマレーシア公正性研究所の代表が議論に参加することの重要性を強調した。セミナーは200人以上の参加者および政府補助

による低い登録料を設定できたことによって、マレーシアのACEMが非常によく組織し、メディアおよび政府の関心を集めた。主なプレゼンテーションは、カナダのハッチ・エネルギーの John Ritchie および FIDIC 公正管理委員会のメンバーの一人が行った。プレゼンテーションは実施訓練用マニュアルモジュールの FIDIC 解説書に基づき、広範囲な資源、特に事例研究および公正性確保手続きの解説文書で補われた。John Ritchie は「能力開発環境、FIDIC のビジネス公正管理システム (BIMS) と他の汚職対策のリンクが重要であり、BIMS 単独では汚職と格闘するには十分ではない」と強調した。FIDIC は、2007 年の FIDIC 大会 (シンガポール; 9月9日-13日) に合わせてワークショップを開催することで、この地域におけるイニシアティブを維持することを目論んでいる。

## 7.4 主要な汚職防止イニシアティブに照らして汚職防止原則を見直し (Antibribery principles reviewed in the light of major anticorruption initiatives)

トランスパレンシーインターナショナル (TI) の運営委員会は、TI、世界経済フォーラムおよび国際商工会議所の汚職防止のための業務原則に関する活動を調整する。FIDIC 常務理事 (Managing Director) Enrico Vink と以前 FIDIC の品質管理フォーラムの議長であった Tonny Jensen は最後の会合 (ワシントン D.C.; 2006年12月6日-7日) に出席した。会議の内容として、次の4事項が特筆される。1) 各々の原則への適合性を保証するための TI の自己評価ツールの使用、2) 世界銀行の自主的情報開示プログラムについての解説、3) 2006年の倫理および適合性指導官協会の調査結果 (165の多国籍企業を含む米国1361会社に対する理事会調査「汚職への抵抗」の結果は、汚職行為記録の増加を報告)、4) 持続可能性報告枠組みの新しい万国報告イニシアティブ G3 バージョンのための汚職指標に関するプレゼンテーション。

## 8. イメージ Image

### 8.1 ASPAC は 2007 年をめざす (ASPAC looks ahead to 2007)

FIDIC 2006 ブダペスト大会の総会決議に基づいて選出された廣谷彰彦を議長に、FIDIC メンバー協会のアジア・パシフィック (ASPAC) グループの新しい運営委員会が設立され、現在までの活動を見直して、2007 年の活動について検討した。ASPAC ニュースレター ([www.fidic.org/ASPAC](http://www.fidic.org/ASPAC)) によれば、災害管理をテーマにした ASPAC-TCDPAP アジア地域会議をラホールで 2007 年 3 月 20 日から 24 日にかけて開催する準備を行なっている (プログラムを参照)。

### 8.2 若手専門家フォーラムがニュースレターを発刊 (Young Professionals Forum newsletter launched)

2006 年の若手専門家経営トレーニング・プログラム (YPMTP) の成功、および若手専門家 (YP) を特色とした FIDIC 2006 ブダペスト大会の一連のイベントから、視線はすでに 2007 年に向けられている。

2007 年の YPMTP に対して、FIDIC は [www.fidic.org](http://www.fidic.org) でトレーニング・プラットフォームを提供し、デンマーク SF-Consult Steen の Frederiksen もトレーニングの提供を継続することになっており、1 月中旬に開始される予定である。YPMTP は Eigil Pedersen、Ben Novak、Fatma Colasan および秋永薫児を含む国際的な助言指導者チームによって支援される。YP フォーラム運営委員会は YPMTP と FIDIC YP フォーラムおよびメンバー協会 YP 活動の連携をより明瞭にするために、その目的と行動計画を再検討した。その結果、優先事項は、FIDIC 2007 シンガポール大会 (9 月 9 日-13 日) でワークショップを組織し、[www.fidic.org/ypf](http://www.fidic.org/ypf) のオンラインネットフォーラムの使用状況をモニターし、促進し、FIDIC YPF ニュースレター (メンバー協会 YP グループ向け [www.fidic.org/ypf](http://www.fidic.org/ypf) から PDF を利用可能) を配布することであると結論づけた。各メンバー協会の YP は、FIDIC YPF とそれぞれの活動についての情報を共有するように要請されている。

## 訃 報

当協会元理事 村川 二郎 様が、平成 18 年 12 月 22 日、ご逝去されました。享年 90 歳。  
AJCE における、主なご活動経歴は、下記のとおりです。

村川 二郎（むらかわ にろう）  
大正 6 年 7 月 22 日生 岡山県出身  
村川技術士事務所（昭和 33 年設立）所長

1975（昭和 50）年 理事・財政基盤強化特別委員会委員長、FIDIC 委員会委員長  
1976（昭和 51）年 副会長  
1978（昭和 53）年 理事・FIDIC 海外連絡委員会委員長

村川氏には、生前、当協会の設立当初におきまして、多大なご尽力・ご厚情を賜り、また、理事として大変ご貢献いただきました。ここに感謝申し上げますと共に、茲に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 事務局報告

### 一 理事会

#### 第212回

日時：平成18年12月12日（火）

14：00～17：00

場所：AJCE事務局

出席理事：14名

出席監事：2名

- 議 事：1. 会員委員会報告・審議  
新会員証発行、細則・内規様式変更
2. 倫理委員会報告・審議  
社内公正管理システム実施状況アンケート
3. 政策委員会報告・審議  
新公益法人制度に基づく定款改訂作業  
受託事業
4. 総務財政委員会報告・審議  
平成19年度事業方針
5. 国際活動委員会報告・審議  
コンサルタント選定に関するアンケート
6. 技術研修委員会報告・審議  
海外建設協会 契約関連用語集  
FIDIC関連用語略語集（案）
7. 広報委員会報告・審議  
会報の年4回発行  
Newsletterカラー印刷化  
会報およびNewsletter掲載記事
8. 技術交流委員会報告・審議
9. 事務局報告  
AJCE平成19年度新年賀詞交歓会  
AJCE2007年度日程表  
平成19年科学技術団体連合会新年賀詞交歓会

#### 第213回

日時：平成19年2月13日（火）

14：00～17：00

場所：AJCE事務局

出席理事：14名

出席監事：2名

- 議 事：1. 会員委員会報告・審議  
入退会および変更、新会員証発行
2. 倫理委員会報告・審議  
BIMSアンケート、  
名誉会員及び会長賞（会長表彰、  
会長褒賞）の選考
3. 政策委員会報告・審議  
受託事業、細則、規定集
4. 総務財政委員会報告・審議  
平成19年度事業計画
5. 国際活動委員会報告・審議  
レッドブック改訂版  
FIDICからのアンケート依頼  
BIMILACI議題案  
QBS推進に向けてのアンケート調査  
ASPACホームページ開設
6. 技術研修委員会報告・審議  
AJCE年次セミナー  
2007年FIDIC大会（シンガポール）  
報告会  
2007年日豪交換研修
7. 広報委員会報告・審議  
会報のホームページ掲載  
オーラルヒストリー収録の開始
8. 技術交流委員会報告・審議
9. 事務局報告  
平成20年AJCE新年賀詞交歓会日程  
複合機の導入について

第214回

日 時：平成19年4月10日（火）

14：00～17：00

場 所：AJCE事務局

出席理事：13名

出席監事：2名

- 議 事：1. 会員委員会報告・審議  
入退会、会員増強活動
2. 倫理委員会報告・審議  
平成18年度表彰
3. 政策委員会報告・審議  
受託事業報告、公益法人改革、  
細則、内規の変更
4. 総務財政委員会報告・審議  
平成18年度事業報告および決算
5. 国際活動委員会報告・審議  
分科会報告、TCDPAPラホール  
大会報告
6. 技術研修委員会報告・審議  
日豪交換研修、年次セミナー
7. 広報委員会報告・審議  
会報春号、Newsletter2007進捗報告  
委員増強
8. 技術交流委員会報告・審議  
分科会活動報告
9. 事務局報告  
AJCE常設委員会名簿  
AJCE2007年度日程表

一 2 一 臨時総会

日 時：平成19年3月13日（火）

14：00～16：00

場 所：学会館本郷分館

出席者：162名（内、委任状による出席者139名）

正会員数：233名

定員数：118名

次の議案が審議、承認された。

- 1) 平成19年度事業計画について
- 2) 平成19年度収支予算について

一 3 一 委員会活動一覧

（平成18年12月～平成19年2月）

日 程	開催委員会・分科会
平成18年12月6日（水）	総務財政委員会
平成18年12月7日（木）	国際活動委員会
平成18年12月8日（金）	技術研修委員会
平成18年12月19日（火）	技術交流委員会
平成18年12月20日（水）	国際活動委員会 ASPAC分科会
平成19年1月11日（水）	倫理委員会
平成19年1月16日（火）	技術交流委員会
平成19年1月19日（金）	政策委員会
平成19年1月24日（水）	総務財政委員会
平成19年1月30日（火）	国際活動委員会 ASPAC分科会
平成19年1月31日（水）	会員委員会
平成19年2月1日（木）	国際活動委員会
平成19年2月6日（火）	広報委員会
平成19年2月7日（水）	技術研修委員会
平成19年2月20日（火）	技術交流委員会
平成19年2月21日（水）	国際活動委員会 ASPAC分科会
平成19年3月19日（月）	政策委員会
平成19年3月20日（火）	技術交流委員会
平成19年3月27日（火）	会員委員会
平成19年3月30日（金）	技術研修委員会

一 4 一 その他の活動

平成19年1月10日（水）新年賀詞交歓会

平成19年3月13日（火）臨時総会

《行事予定》

平成19年5月15日（火）定時総会

平成19年6月11日（月）第215回理事会

## 編集後記

広報委員会では、AJCE会報を、読者の皆様方にFIDIC・AJCEの使命および活動をより深く知っていただくための広報媒体と位置づけています。

なかでも、FIDICの中心的活動であるFIDIC大会の真の意味を知ることは、CE（コンサルタント・エンジニア）個人にとっても、CE産業にとっても、大変重要なことと思っています。このたび「座談会 - 2006年FIDICブダベスト大会報告を読み解く」と題し、討論会を開催することが出来ました。これは、大会報告の中にある宝物を掘り出し、われわれCEにとって真に価値あるものに磨き上げるのが狙いです。読者の皆様にとっても、何か行動を起こす示唆を感じることが期待されます。年度末の激務の間をぬって、この討論会にご参集賜りました出席者の皆様方には心より感謝申し上げます。この会合を一つのきっかけとして、協会活動への理解がより深まるよう、広報活動の充実を考えていきたいと思っています。

本年からAJCE会報の発行を年4回（春号、夏号、秋号、冬号）に増刊する予定です。これは、読者の皆様方に、CEの地位の向上及びCE産業の発展に資する情報を、より詳しく、よりわかり易くお届けするため、さらには、皆様方からの声も幅広く、会報記事として広報していくことを考えているためです。今後も、会報は皆様方のCE活動を支援し続けることを使命としています。（広報委員会・記）

広報委員会からのお願い

会員各位の自由な  
投稿をお待ちします

コンサルティングエンジニアを取り巻くいろいろな問題を、もっと自由に議論し、より身近なものとして捉えていく場を提供したいとの考えから、会員の皆様からの原稿を募集し、随時掲載していきたいと考えております。会報を通して皆様方が伝えたい意見、体験報告等をお送り下さい。

氏名、所属、タイトル、ご執筆者のプロフィール（200字程度）、連絡先（電話番号等）を明記の上、3,000～4,000字程度の分量にまとめて、事務局宛にEメール、ファックス、郵送にてお送り下さい。写真・図表等も加えて頂ければより良い読み物となります。

## AJCE会報4月号

2007年4月1日発行

発行 社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE)  
東京都台東区上野3丁目16番4号 文行堂ビル3F  
TEL 03-3839-8471 FAX 03-3839-8472  
URL <http://www.ajce.or.jp/> E-mail:info@ajce.or.jp

編集 広報委員会

デザイン・レイアウト 株式会社 大應  
東京都千代田区内神田1-7-5

## 普通会员・賛助会員一覧（平成19年4月末現在）

### （普通会员・55社）

株式会社アイ・エヌ・エー  
秋山技術士事務所  
株式会社明野設備研究所  
池田技術士事務所  
市川技術士事務所  
いであ株式会社  
OYO インターナショナル株式会社  
有限会社大野化学機械工業所  
大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント  
有限会社大塚エンジニアリング  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
技術士大野壽彦事務所  
基礎地盤コンサルタンツ株式会社  
有限会社クープラス  
栗原環境技術研究所  
黒澤R & D技術事務所  
株式会社建設技研インターナショナル  
株式会社建設技術研究所  
国際航業株式会社  
桜井技研  
清水技術士事務所  
創造工学研究所  
武田機械・経営技術士事務所  
有限会社高木技術士事務所  
田中宏技術士事務所  
中央開発株式会社  
株式会社長大  
電気技術開発株式会社  
株式会社ドーコン  
株式会社東京設計事務所  
株式会社東光コンサルタンツ  
有限会社内藤メディカル研究所  
中塩技術士事務所  
中島技術士事務所  
中西技術士事務所  
長友機械技術士事務所  
株式会社中堀ソイルコーナー  
株式会社日水コン  
日本工営株式会社  
株式会社日本構造橋梁研究所  
株式会社日本港湾コンサルタント  
日本シビックコンサルタント株式会社  
日本上下水道設計株式会社

日本水工設計株式会社  
株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナル  
早房技術士事務所  
有限会社樋口コンサルタント  
平野技術士事務所  
プラント設計株式会社  
ペガサスエンジニアリング株式会社  
株式会社メイケン  
株式会社森村設計  
八千代エンジニアリング株式会社  
株式会社山下水道設計事務所  
湯浅技術士事務所

### （賛助会員・8社）

株式会社石垣  
株式会社荏原製作所  
株式会社クボタ  
住友信託銀行株式会社 東京中央支店  
社団法人全国地質調査業協会連合会  
社団法人日本建築家協会  
株式会社日立製作所  
前澤工業株式会社 東京支店

### （企業内個人会員）

173名

（五十音順）





Association of Japanese  
Consulting Engineers

社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE)  
(FIDIC加盟機関)